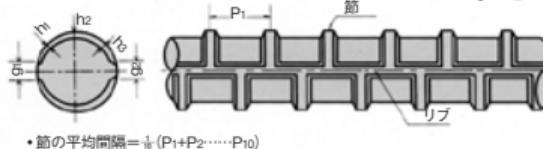


鉄筋コンクリート用棒鋼 JIS G 3112

大阪製鐵(株)
トピー工業(株)

$$\cdot \text{節の平均間隔} = \frac{1}{10} (P_1 + P_2 + \dots + P_{10})$$

$$\cdot \text{節の高さ} = \frac{1}{3} (h_1 + h_2 + h_3)$$

$$\cdot \text{節のすき間} = g_1 + g_2$$

寸法および質量

呼び名	公称直徑 (d)	公称周長 (l)	公称断面積 (S)	単位質量 (W)	節の許容限度				節と軸線 との角度 の最小値
					節の平均間隔 の最大値		節の高さ	節のすき間の 合計の最大値	
					最小値	最大値	mm	mm	
▲* D10	9.53	29.9	71.33	0.560	6.7	0.4	0.8	7.5	45°
▲* D13	12.7	39.9	126.7	0.995	8.9	0.5	1.0	10.0	
▲* D16	15.9	50.0	198.6	1.56	11.1	0.7	1.4	12.5	
▲* D19	19.1	60.0	286.5	2.25	13.4	1.0	2.0	15.0	
▲* D22	22.2	69.8	387.1	3.04	15.5	1.1	2.2	17.5	
▲* D25	25.4	79.8	506.7	3.98	17.8	1.3	2.6	20.0	
▲* D29	28.6	89.9	642.4	5.04	20.0	1.4	2.8	22.5	
▲* D32	31.8	99.9	794.2	6.23	22.3	1.6	3.2	25.0	
▲* D35	34.9	109.7	956.6	7.51	24.4	1.7	3.4	27.5	
▲* D38	38.1	119.7	1140	8.95	26.7	1.9	3.8	30.0	
* D41	41.3	129.8	1340	10.5	28.9	2.1	4.2	32.5	
* D51	50.8	159.6	2027	15.9	35.6	2.5	5.0	40.0	

*印は大阪製鐵製造サイズです。▲印はトピー工業製造サイズです。

化学成分

成分(%)	C	Si	Mn	P	S	※Ceq
SD295	0.27以下	0.55以下	1.50以下	0.050以下	0.050以下	—
SD345	0.27以下	0.55以下	1.60以下	0.040以下	0.040以下	0.60以下
SD390	0.29以下	0.55以下	1.80以下	0.040以下	0.040以下	0.65以下
SD490	0.32以下	0.55以下	1.80以下	0.040以下	0.040以下	0.70以下

※必要に応じて、この表以外の合金元素を添加してもよい。

$$* \text{Ceq} = \text{C} + \text{Mn}/6 + \text{Si}/24 + \text{Ni}/40 + \text{Cr}/5 + \text{Mo}/4 + \text{V}/14$$

Ceq: 炭素当量 (%)

機械的性質

性質 銅種	引張試験					曲げ試験	
	降伏点 又は耐力 (N/mm ²)	引張強さ (N/mm ²)	降伏比 (%)	伸び		曲げ 角度	内側半径
				試験片	伸び(%)		
SD295	295以上	440~600	—	2号に準ずるもの	16以上	180°	D16以下 公称直徑の1.5倍
				14A号に準じるもの	17以上		D16超え 公称直徑の2倍
SD345	345~440	490以上	80以下	2号に準ずるもの	18以上	180°	D16以下 公称直徑の1.5倍
				14A号に準じるもの	19以上		D16超えD41以下 公称直徑の2倍
SD390	390~510	560以上	80以下	2号に準ずるもの	16以上	180°	D51 公称直徑の2.5倍
				14A号に準じるもの	17以上		公称直徑の2.5倍
SD490	490~625	620以上	80以下	2号に準ずるもの	12以上	90°	公称直徑の2倍
				14A号に準じるもの	13以上		

※呼び名D32を超えるものについては、呼び名3を増すごとに表の伸び値からそれぞれ2%を減じる。ただし、減じる限度は4%とする。